

平成 28 年 11 月 21 日

PTA 会員各位

八幡山小学校 PTA 会長 榎田 枝里子
家庭教育学級委員長 和田 夏江
同副委員長 尾崎 あづみ

第 2 回家庭教育学級の報告

平成 28 年 11 月 1 日(火)ランチルームにて、第 2 回家庭教育学級を開催しました。雨が降る中、50 名の保護者の方にご参加いただきました。

都立松沢病院精神科 厚東知成先生と、地域福祉の相談窓口 上北沢安心すこやかセンターさんをお招きし、「認知症」～困っている人に手を差し伸べるためにどうすればいい?～をテーマに、老化や高齢とはどういう事か、そのために起こりうる病気(認知症)が生活にどのような影響を及ぼしているかについて講演していただきました。

高齢化社会の問題は、今後私たちにとって欠かすことのできない問題です。

「認知症」はだれにでもおこる脳の病気であり、認知症の人は自分がおかしくなっていると感じて苦しみ、悩んでいたり悲しんだりしています。介護する側が失敗したことを否定し続け叱ってばかりいては、患者の症状は増々悪くなります。「大丈夫」と肯定的に受けとめ本人の苦しみをわかってあげると、症状の進行はゆるやかとなるそうです。また、認知症の人に対しては、できないことには多少目をつぶって、2～3 割できればよいといった楽な気持ちで接することが大切であるというお話もいただきました。介護の話ではありましたが、子育てにも何か通じるものがあるように感じられました。まわりの人が、認知症の人の不安な気持ちを感じ取り、何に困っているかを見て助けてあげることが大切であり、困っている人や家族を見かけたら、やさしく言葉をかけ手をかしてあげられるような地域が必要であることも教えていただきました。



アンケートでは

- ・認知症について、深く知る事ができました。とても楽しい講演でした。
- ・厚東先生のトークとっても楽しかったです。今日コツを知る事ができ、少し不安がやわらぎました。まずは、笑顔ですね。
- ・できないことを責めるのではなく、できることをほめる、のばす 介護も子育てと同じだなと思いました。
- ・役に立った。認知症の方に対してだけでなく、普段の人づきあいにも通じる内容でした。生活の中で少し意識しながら実践していきたいです。
- ・認知症の方への接し方、どういう気持ちなのか少しですが分かったような気がします。介護する側のサポートの仕方もいろいろあり、とても分かりやすかったです。ありがとうございました。
- ・とても話が分かりやすく、認知症の事がよくわかりました。心がけていこうと思います。
- ・地域で優しく見守る精神がとても大事だと思います。認知症になりにくくなるためのポイントなど、もっと知りたかったです。
- ・とても勉強になるお話でした。記憶はなくても感情は残るところは、普段の生活でも気をつけなければならないと思いました。とてもためになりました。
- ・できない事でガッカリせず、できることをみつける。気づかされました。みんなで地域で関わることの大切さ、知識もっと広がればいいのと思いました。
- ・両親や身近な人たちの変化に早めに気づき対応できるよう、心の準備をしたいと思います。
- ・自分の対応の仕方を振り返る良い機会となりました。
- ・老という事に伴う、さけられない「孤独と喪失」についてそれをこわがらず、受けとめる心の養成をしていかなければならないと強く思いました。
- ・今日のお話を参考にして家族にも教えたいと思いました。
- ・感情だけが残るといふこと心にとめておきたいです。
- ・認知症の方は視野が狭く本人がとても不安で辛い思いをしているということを知りました。厚東先生のようなお医者様や安心すこやかセンターの存在があることはとても心強いと思いました。

など他にも多数のご意見をいただきました。ご協力ありがとうございました。

第 3 回家庭教育学級は 1 月 27 日(金)を予定しております。
詳細が決まりましたらお知らせいたします。
みなさんのご参加お待ちしております。